

畜研だより

発行 富山県農林水産総合技術センター
畜産研究所
〒939-2622 富山市婦中町千里前山1
TEL 076-469-5921 FAX 076-469-5945
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/chikusan/>

平成29年度に取り組む重点研究項目を紹介します

(研究推進目標)

本県の畜産生産現場を取り巻く課題への対応と、将来を見据えた畜産業の推進を目指して、以下の6つの技術領域について展開を図ります。

- (1) ブランド力の高い畜産物の開発
- (2) 高品質な畜産物の生産技術の開発
- (3) 地域特性を活かした生産性向上技術の開発
- (4) 環境に配慮した持続的畜産の推進
- (5) 技術開発を支える基礎的・基盤的試験研究の強化
- (6) 種畜の安定供給と維持管理の推進

(重点研究項目)

■ ブランド力の高い畜産物の開発

○ドライエイジングによるプレミアム牛肉の生産技術の解明 (H27~29)

ドライエイジングが牛肉の水分・成分・テクスチャーに及ぼす変化を調査し、低コストで食味を向上させ高付加価値化を図る技術を開発します。

■ 高品質な畜産物の生産技術の開発

◎新 系統豚「タテヤマヨークⅡ」の連産性評価および生産子豚の離乳率向上技術の確立 (H29~31)

当該系統豚の産次経過に伴う繁殖能力の推移を調査し、生涯生産性を解析します。
また、初生子豚の分娩直後からの行動を解析し、離乳までに子豚が死亡する要因の解明及び対策技術の開発を行います。

■ 地域特性を活かした生産性向上技術の開発

◎新 地域由来粗飼料を活用した高泌乳牛の乾乳期低栄養管理の技術の開発 (H29~31)

乾乳期に大麦わら等の地域由来粗飼料を給与し、低栄養にすることにより周産期疾病の減少や繁殖成績の向上を図る技術を開発します。

○肉用肥育牛向け大麦わらサイレージ給与技術の確立 (H27~29)

大麦わらサイレージの肥育中期用粗飼料としての特性調査と効率的な収穫体系を検討することで、肥育期間を通じた地域資源由来の粗飼料供給(大麦わら、WCS、飼料イネ)を可能とする技術開発を行います。

■ 環境に配慮した持続的畜産の推進

○ マスキング資材による畜産臭気抑制技術の開発

(H27~29)

混住化の進展により規制基準はクリアしているものの依然として悪臭に起因する苦情があることから、安価で簡易に設置・散布できるマスキング資材等について検証し、「苦情」のない畜産業の実現を目指します。

■ 技術開発を支える基礎的・基盤的試験研究の強化

○ (新) ICT 技術を活用した黒毛和種の効率的な管理技術の開発

(H29~31)

ICT を利用した牛個体情報管理とセンサーを利用した運動量などから発情等の生体情報を把握する技術を開発します。

■ 種畜の安定供給と維持管理の推進

- ・ SPF 化した系統豚「タテヤマヨーク II (H26.3 系統認定)」や本系統豚を活用した F1 種雌豚並びにデュロック種雄豚を供給します。
- ・ 肉用牛及び乳用牛を改良し受精卵等の優良遺伝資源を供給します。

ICT 技術を活用した黒毛和種の効率的な管理技術の開発

研究内容



ICT(情報通信技術)等の新技術の活用

ICT管理システム等を利用した生産性向上技術の確立

《具体的な研究内容》

- 繁殖牛個体ごとに識別タグを取り付け、分娩や投薬履歴などの個体情報を記憶させ、現場で簡単に参照できる技術を検証
- さらに、繁殖牛個体ごとにセンサーを取り付け、運動量や反芻回数等の生体情報をリアルタイムで把握し、発情や増体との関連性を調査
- 肥育和子牛の動画による行動分析により、飼養環境を客観的に評価し改善する手法を確立

期待される成果

- ICT 技術を活用した迅速かつ正確な牛個体情報の管理
- 生体データの自動採取による飼養管理の向上と効率化
- 客観的な飼養環境評価による飼養状態の改善



大規模肉牛農家の大幅な生産性の向上による収益性の改善

